

団体データ

社会福祉法人千年会
障害者支援施設 千年園

- 設立 1992年
- メンバー 48名
- 拠点 弘前市
- 活動エリア 弘前市千年地区
- 住所 〒036-8144 弘前市原ヶ平字山中39-1
- TEL 0172-87-4888
- MAIL info@chitose-kai.or.jp
- HP http://www.chitose-kai.or.jp/



HP



連携先機関

- 安全運転管理者協会 ● 千年小学校
- 松原小学校 ● 南中学校 ● 原ヶ平町会
- 弘前市社会福祉協議会など

団体のあゆみ

- 1991 ● 千年会 設立
- 1992 ● 千年園 開園
- 1995 ● エコリレーション活動開始
- 2016 ● 畑づくり開始
- 2018 ● 休耕地を活用しての農作業開始
● 雪かき支援(ボランティア)開始
- 2020 ● おいでえーる開始

ここがPOINT!

専門職スタッフが
知識を提供できる場に

千年園には専門職のスタッフが多数勤務しています。施設内での職務のほかに、地域住民とのかかわりやボランティア活動を通して、専門知識を活かして住民への相談やアドバイスなどの支援を行っています。また、施設でのイベントには職員の家族も参加するなど、地域交流だけではなく職員同士の交流の場にもなっています。



「みんなの食堂」には幼稚園児から高齢者まで参加する。



施設の敷地内で行った防災訓練。



利用者も「事故なし」の配布活動に参加。

きたことで、以前よりも地域の皆さんが気に掛けてくれるようになったという小林さん。町会から声を掛けていただいていた防災訓練を行ったり、町会や中学校と協力して「人暮らしの高齢者のお宅の雪かきをするなど、積極的な交流が増えています。また、「事故なし」を受け取った子どもがおいでえーるに来てくれたり、福祉体験に来てくれたりすることもあり、さまざまな活動を入り口に福祉を知っていただく機会も得ています。「障害者支援の施設」というとなかなか一般の方が近寄りたがたいかと思いますが、こういった活動を通してスタッフが地域に向くことで、地域の方々の意識が変わったように感じています。」

**「当たり前」に
助け合える地域」。**
そのためにできることを
現在は施設スタッフが主導となつて地域活動していますが、今後は施設内でみんなの食堂などのイベントを実施して、施設の利用者さんにも参加してもらいたいと話します。「今参加してくださっている地域の方が、企画運営やボランティアへと立ち位置を変えていくことで、より地域活動として継続している。そういった展開に期待しています。農業活動にもより力を入れて取り組み、また違った活動へとつながっていくかと思っています。」
最終的には福祉施設のようなものがなくても、生まれ育った地域で当たり前で助け合える地域になることができるのが一番の理想、と語る小林さん。



スタッフが楽しみながら地域活動に取り組んでいます!

施設が本来持っている人、設備、職能、ノウハウなどが地域でも活かされるよう、地域とのかわりを増やしていくことをめざしてこれからも活動を続けます。

弘前市



町会、事業者、学校と
ともに取り組む地域活動

社会福祉法人千年会
障害者支援施設 千年園 / 理事長 小林 大眞さん

障害者支援施設千年園では、開設以来環境を意識したエコリレーション活動を実施してきたほか、地域住民に開かれたみんなの食堂「おいでえーる」の実施、安全運転を啓発する事故なし運動などの地域活動を、千年地区の町会や事業者、学校などと協働して継続している。

地域に暮らす一員として、
法人で地域に貢献

弘前市千年地区にある「千年園(ちとせえん)」は、身体に障害のある方が生活を送る障害者支援施設。施設には約40名の利用者が暮らしています。「我々の施設は、利用者さんが生活をする施設として位置づけられています。千年地区で生活をする私たちスタッフも地域の一員です。利用者さんにもできることをやってみながら、課題を共有したり協力し合うことで地域づくりに貢献しています」と千年会理事長の小林さんは話します。2022年で開設30年を



かけがえのない
この場所で地域貢献!

迎える千年園では、周辺地域の事業者や学校を巻き込んだの「おいでえーる」の実施、事故なし運動、地域の防災訓練への参加や雪かきボランティアなど、地域の小・中学校や町会と協力しながら、地域に貢献するさまざまな取り組みを実施しています。

地域を巻き込んだ
リサイクル活動で
車椅子を寄付

施設を開設して以降、環境に対する意識を変え、自分たちができることをしようと最初に始めたのが、施設内でのごみの分別とリサイクルです。「最初は施設内で始めたプルタブの収集活動でしたが、よりリサイクルの輪を広めようとスタッフの家庭や地域にある事業者、団体にも声掛けて回収ボックスを置かせてもらい、協力していただいたのが、現在の「エコリレーション活動」のルーツです。利用者さんには、リサイクルに協力していただいている会社へプルタブの回収活動に参加してもらうことで外出の機会、会社見学の機会になっており、「石二鳥ですね」。リサイクル活動の収益金で車椅子を購入し、これまで13台ほどの車椅子を弘前市の小学校に寄贈しています。



エコリレーション活動での、利用者による会社等の訪問。

また、5年ほど前から施設敷地内と施設周辺の休耕地で始めた畑づくりは、周辺の農家さんに栽培方法を教えてもらい始めました。施設スタッフと利用者さんができる範囲で活動し、野菜づくりをしています。そこで収穫できた野菜を活用しているのが「みんなの食堂おいでえーる」です。「みんなの食堂は、健康的な食生活の支援や孤食の防止、食文化の伝承など、食育の推進を図るために始めた、「共食」の場を提供する事業です。毎月2回、地域の交流センターなどを借りて、子どもからお年寄りまで調理と食事を楽しんでいます。千年地区の方だけではなく、弘前市街や遠方からお友達同士で参加してくれる子どももいますし、学区を越えたつながりができる場所となっています」。運営は

町会、学校との連携で、
福祉を知ってもらう
機会も増える



地域の事業者にプルタブ回収を協力いただく。

幅広い年齢層の地域住民が参加できるイベントや、学校や町会と連携した活動を続けて

施設スタッフがいき、食に関するテーマを設けて開催。「あおり食命人」に登録されているスタッフや栄養士など、職員が専門性を活かして参加しています。この活動は弘前市の1%事業として補助金を活用し、継続しています。このほかにも、千年園の敷地内にある梨の樹から収穫できた梨をスーパーの店頭や自動車学校などで配る「事故なし」運動も実施。近隣の小学1年生にも配布して交通安全の呼び掛けをしています。